

開催地名：岩手県八幡平市	
開催日時	令和元年 11 月 14 日（木） 18：00 ～ 19：30
開催場所	八幡平市役所
語り部	太田 千尋 （宮城県仙台市）
参加者	市内の各自主防災組織等 約 50 名
開催経緯	<p>当市では一部、自主防災組織は結成されているが、市内全域での結成には至っていない。そこで東日本大震災の語り部に、住民に対する避難誘導についてと、自主防災組織の必要性についてお話しいたいただき、今後の防災活動の一助としたい。</p>
内容	<p>（１） 3.11 東日本大震災</p> <p>仙台市内では宮城野区が震度 6 強、青葉区、若林区、泉区が震度 6 弱、太白区が震度 5 強であった。震度 6 と震度 5 とでは揺れの大きさは全く違う。地震後は帰宅困難者が発生し、避難所が開設された。皆さんご存知のように、生活用品はあらゆるものが不足し、車の燃料も長期間不足した状態だった。</p> <p>（２） 自助・共助・公助の役割</p> <p>自助：自分の身は自分の努力によって守る</p> <p>自助の対策としては、住宅の耐震補強、ブロック塀の点検、家具の転倒防止、非常持ち出し袋、飲料水や食料の備蓄、避難ルートの確認、家族の連絡方法の確認等があげられる。</p> <p>共助：地域や近隣の人が互いに協力しあう</p> <p>公助：国や都道府県・市町村等の行政、消防機関等による防災活動</p> <p>八幡平市においては、市内全域での自主防災組織の結成には至っていないと伺っている。是非自主防災組織の結成を目指してほしいと思う。また、避難するときややるべきことをわかっていないと、避難所で苦勞したり、危険な目にあったり、家族がバラバラになってしまったりする可能性がある。平時の訓練や準備は絶対に必要である。普段から地域とのかかわりが大切であることは言うまでもないし、東日本大震災では炊き出しや飲料水の運搬等で中学生が活躍した。子どもたちを含めた防災訓練も是非実施してほしい。</p> <p>（３） 避難所で浮かび上がった問題点とその対策</p> <p>避難所では大勢の方々が身を寄せるので、着替えをする場所がなかったり、女性用の物干し場がないことから下着が干せなかったり、生理用品やおむつ、粉ミルクの不足や配布方法に問題が発生するなど、様々な問題が発生した。これら</p>

は、自主防災組織の中に女性リーダーが配置されていれば改善されるケースが多いので、今後の防災対策においては女性の視点を取り入れること、女性の参画等を推進することが重要だ。

(4) 身近でできる防災・減災対策

自宅周辺の災害リスクや避難場所、非難ルート、待ち合わせ場所等を家族で共有しておくことは極めて大切である。家庭では、できれば寝室にはあまり物を置かず、出口については家具でふさがらないような配慮が必要だ。

水や食料の備蓄については、1週間分の量が基本である。水は一人1日3リットルで想定していただきたい。ずっと保存しておくのではなく、循環備蓄して適宜消費して新しいものを保管していくこと。また、分散備蓄といって一か所ではなく、分散して備蓄しておくような工夫もお願いしたい。

非常時持ち出し袋の具体例は以下を参照されたい。

現金・筆記用具

飲料水・非常食・お菓子

スマートフォン・携帯電話・非常充電器

電池・ティッシュ・タオル

懐中電灯・ラジオ・雨具・カイロ・マスク

ごみ袋・ラップ

輪ゴム・毛布・眼鏡・入れ歯・常備薬・生理用品



開催地より

東日本大震災を体験された生のお話を分かりやすくしていただき、とても興味深く聞くことができた。今後の防災活動に非常に役立つ内容であった。